

「無言」の意思表示

「無言宣伝」。毎週月曜日の朝、嵐電・北野白梅町駅（京都市）で思い思いのプラカードを掲げた人たちが約1時間、安倍政権の「壊憲」政治に反対の意思を示す行動です。

京都

「視（のぞ）くなく！心を共謀罪（の条壊すな）」。「午前7時30分すぎから駅前が集まった人たちが、大通りの交差点に向かって持参したプラカードでアピールします。

守れ憲法 戦争でめん

「た視覚障害のある男性は白杖（はくじょう）を使って歩きながら、みんなが立

毎週月曜 プラカード掲げ行動



つ方向を向き「おはようございます」と声がかかるの

を待っています。

気ままに近所で

「黙って意思表示をするだけ。それでも、行きかう人たちは何かを感じ取っているんじゃないか」

「使うのは、電動車がすを使う井上吉郎さん（71）。脳幹梗塞で約10年前に倒れ、体の右側にまひがあります。」

「まひのため言語障害がありマイクが使えない。右腕が不自由なのでチラシも

参加者がそれぞれ持参したプラカードでアピールする「無言宣伝」11月、京都市

まけない」。こんな井上さんが一人、2013年12月に秘密保護法の立法化に異議を唱えたのが、無言宣伝のはじまりです。

井上さんは、市民や日本

共産党に推され京都市長選に3度挑戦、大善戦した経歴の持ち主。SNSや口コミなどで無言宣伝の活動が徐々に伝わり、賛同した人たちが気ままに参加するようになりました。

「集会などの企画も大事だけど、自宅から歩いていけるところで自由に表現できる空間ができた方がいいなと考えていたんです」と語るのは、山田和幸さん（65）。「街中で、一人で意思表示するのは勇気がいるけど行動の原動力じゃないかな」

山田さんは2年前から別

の駅前町内の人たちと毎週木曜朝のスタンディングを始め、5月中旬には100回目を迎えました。

うれしい反応も

新宮真知子さん（64）は東電・福島第一原発事故をきっかけに、さいたま市から京都市に避難していています。「関東からなぜ避難しているの？」という空気に押しつぶされそうになることもあるといいます。「ここでは、ありのままの思いを表せる。通り過ぎる人たちとも交流できるのが楽しい」

偶然通りがかったという女性が「署名用紙はありますか？」と声をかけてきました。この日は誰も署名用紙を持ち合わせていませんでしたが、女性は「何かで

きることがあれば」と話していました。

井上さんは「共謀罪反対」のプラカードを下けたとき、長い間無反応だった男性が初めてチラシを2種類受け取ったんです。うれしかったですね」と振り返ります。「SNSの発信で行動が広がり、街の中でも多くの人が共感してくれるとは思っていませんでした」

5月3日、『無言宣伝（かもがわ出版）が発行されました。井上さんをはじめ無言宣伝に参加した人などの思いが編まれてい